

令和6年度 第2回富山県総合教育会議

日 時：令和6年7月22日（月）13:00～14:30

場 所：県庁4階大会議室

次 第

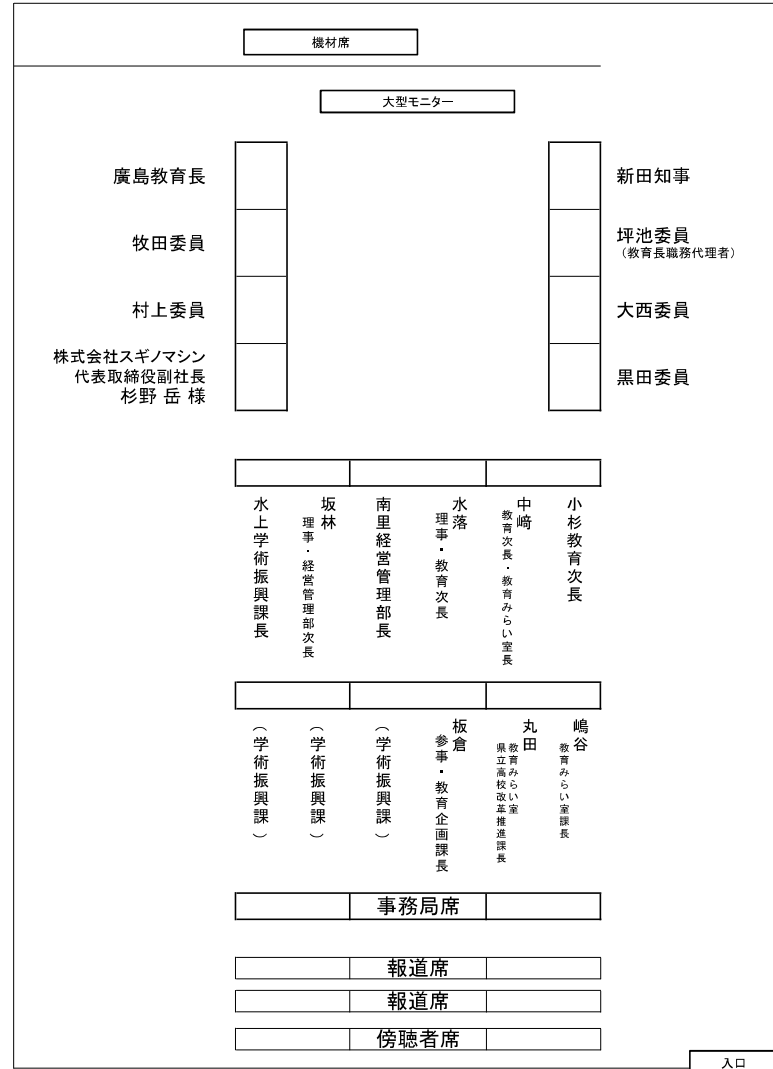
- 1 開 会
- 2 知事挨拶
- 3 議 事
 - (1) 県立高校における教育振興について(協議)
○学科・コースの見直しについて
 - (2) 公私立高等学校連絡会議について(報告)
- 4 閉 会

<配付資料>

- 資料1 これまでの検討経過、総合教育会議における検討項目
- 資料2 学科・コースについて
- 資料3 各学科の配置状況
- 資料4 教育課程について
- 資料5 一括募集について
- 資料6 学科別卒業生の進路
- 資料7 学科別志願状況及び欠員状況の推移
- 資料8 県立高校のあり方に関するアンケート調査結果
- 資料9 地域の教育を考えるワークショップ（学科・コースについての主なご意見）
- 資料10 学科・コース見直し（案）
- 資料11 令和6年度第1回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果

令和6年度第2回富山県総合教育会議 配席図

日時 令和6年7月22日(月)13:00~14:30
 場所 県庁4階大会議室



令和6年度第2回富山県総合教育会議 出席者名簿

(敬称略)

(委員)

職名	氏名	備考
富山県知事	新田 八朗	
富山県教育長	廣島 伸一	
富山県教育委員 (教育長職務代理者)	坪池 宏	元富山県教育次長
富山県教育委員	村上 美也子	医師
富山県教育委員	大西 ゆかり	社会福祉士
富山県教育委員	黒田 卓	大学教授
富山県教育委員	牧田 和樹	会社社長

(有識者等)

東北大学大学院教育学研究科 教授	青木 栄一	
株式会社スギノマシン 代表取締役副社長	杉野 岳	

これまでの検討経過(令和6年度)

1. 第1回 総合教育会議 5月2日(木)
 - ・ 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)
 - ・ 南砺平高校における全国募集について
 - ・ 県立高校の目指す姿について
 - ・ 今後の進め方について

2. 第1回 地域の教育を考えるワークショップ
新川学区：5月27日(月)、富山学区：6月3日(月)、高岡学区：5月30日(木)、砺波学区：5月29日(水)
 - ・ 「提言」及び「県立高校の目指す姿」について
 - ・ 「〇〇学区の目指す姿」について

3. 第2回 地域の教育を考えるワークショップ
新川学区：7月2日(火)、富山学区：6月28日(金)、高岡学区：7月9日(火)、砺波学区：7月10日(水)
 - ・ 学科・コース
 - ・ 様々なタイプの学校・学科、特色・魅力ある学校づくり

総合教育会議における検討項目 (第1回会議〔資料2-4〕より)

- 県立高校の目指す姿(案) 第1回
- 県立高校の学科・コースの見直しに関する事 第2回(今回)
- 様々なタイプの学校・学科等に関する事
- 県立高校再編の検討

学科・コースについて

高校には、普通科、専門学科、総合学科の3種類の学科があります。普通科の中には、特色ある科目を学ぶことができるコースを設けている学校があります。総合学科では、自分に合った科目を選び、自分で時間割をつくることができます。専門学科では、農業、工業、商業などの専門分野の科目を重点的に学ぶことができます。(魅力ある富山の県立学校 2023 より抜粋)

普通教育を主とする学科	専門教育を主とする学科		普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科
	普通系	職業系	
普通科 その他普通教育を施す学科 (学際領域学科 地域社会学科 その他普通科)	理数・外国語・国際関係・音楽 美術・体育	農業・水産・工業・商業・家庭・ 看護・福祉・情報	総合学科

※下線は、本県に設置されている学科

※富山、富山中部、高岡に設置している探究科学科は専門教育を主とする学科(その他)の理数(理数科学科)と外国語(人文社会科学科)の2学科の総称(資料3参照)

参考 その他普通教育を施す学科(新たな普通科)

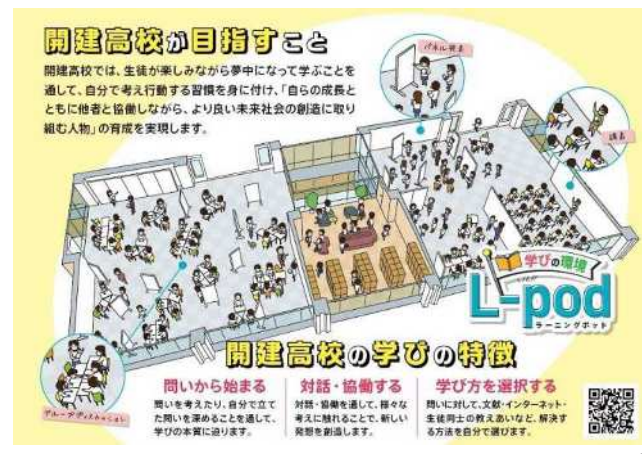
令和3年3月31日に学校教育法施行規則等の一部が改正され、新たに「普通科その他普通教育を施す学科」の設置が可能となった。

特徴

- ・ 学科の特色等に応じた学校設定科目を2単位以上履修する。
- ・ 学校設定科目と総合的な探究の時間を合計6単位以上履修する。(これまでの普通科は原則3単位)
- ・ 大学、地域の行政機関又は事業者等と連携協力体制を整備する。

京都市立開建高等学校 ルミノーション科

- ・ ラーニングポッド(L-pod)と称する独自構造の教室で、特徴的な授業を行う。
- ・ 80名×3クラスとして編成。時間割上も80人1クラスを1コマとする。
- ・ 多くの授業で生徒80名に対して教員3名が出講(教科・科目による)。
- ・ 場面に依じて80人で一斉授業や、パーティーで仕切って3展開で授業を行う。



各学科の配置状況(令和6年度)

	新川学区	富山学区	高岡学区	砺波学区
普通科	入善・桜井・魚津 滑川・雄山	八尾・富山西・富山 富山中部・富山北部 富山東・富山南・呉羽	大門・新湊・高岡 高岡南・福岡・氷見	砺波・南砺福野 南砺平・石動
コース	入善(自然科学) (観光ビジネス)	八尾(福祉) 富山北部(体育)※ 富山東(自然科学)※ 富山南(国際) 呉羽(音楽)※	大門(情報) 高岡南(人文科学) 福岡(英語)	—
探究科学科	—	富山・富山中部	高岡	—
国際科	—	—	伏木	南砺福野
農業科	入善	中央農業	氷見	南砺福野
水産科	滑川	—	氷見	—
工業科	桜井・魚津工業・滑川	富山北部・富山工業	高岡工芸	砺波工業
商業科	滑川	富山北部・富山商業	新湊・高岡商業・氷見	石動
家庭科	桜井・雄山	—	氷見	—
看護科	—	富山いずみ	—	—
福祉科	—	—	—	南砺福野
総合学科	上市	富山いずみ	小杉	—

・普通科(コース)の※は、1年次スタート。その他は2年次よりスタート。

教育課程について

普通科

- ・普通教科・科目を中心に学習し、2・3年で文系・理系などの類型に分かれます。
- ・普通科コースでは、専門的な学習を生かした進路選択ができます。

幅広く国際理解を学ぶコース

富山南(国際コース)では、「ディベート・ディスカッション」などの専門科目の授業を通して国際理解を深め、英語力を養います。また、幅広い分野から講師を招いた国際理解のための講演会やセミナー、1泊2日の English Camp でのALT との小グループ英語研修、アメリカなどの高校とのオンライン交流など、外国の人たちと直接触れ合い、国際感覚を育てる様々な活動を行っています。また、3月に行われる海外研修では、アメリカの高校の授業やホームステイを体験します。希望者から選抜された約20名が参加します。



海外研修(富山南)

情報活用能力を育てるコース

大門(情報コース)では、情報活用能力を育成します。県内外の大学で講義・実習を受講する情報体験実習や、射水市などと地域の課題や情報を共有して問題解決を目指す課題研究等、幅広い学習活動を実践しています。



課題研究の成果発表(大門)

「魅力あるとやまの県立学校 2023」

https://www.pref.toyama.jp/documents/10022/miryokukenritsugakko_2023.pdf より抜粋
冊子 p 7~12 に普通科コースの紹介あり

(例) 普通科及び普通科コース(2年次スタート)

単位数：週の授業時数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	
1年次	国語			地歴			数学			理科			体育		保健	芸術		英語			家庭		総合	H	R									
2年次	国語			地歴			公民	数学			・理科(普通科) ・専門科目(普通科コース)			体育		保健	英語			情報	総合	H	R											
3年次	国語			地歴			数学			・理科(普通科) ・専門科目(普通科コース)			体育		英語			総合	H	R														

	月	火	水	木	金
1					
2					
3	1年次33単位の場合、				
4	週 33 時間				
5					
6					
7		×		×	

専門学科

・専門分野の科目を重点的に学ぶことができます。

※専門学科においては、専門教科・科目について、すべての生徒に履修させる単位数は、25単位を下回らないこと。（学習指導要領解説より）

《専門教科・科目(例)》

農業

農業と環境、作物、野菜、草花、畜産、飼育と環境、植物バイオテクノロジーなど

工業

工業技術基礎、製図、機械工作、電気回路、電子回路、建築構造、測量、インテリア計画など

商業

ビジネス基礎、マーケティング、商品開発と流通、簿記、情報処理、ビジネスマネジメントなど

水産

水産海洋基礎、漁業、資源増殖、海洋生物、海洋環境、水産流通、食品製造など

家庭

生活産業基礎、消費生活、保育、基礎、生活と福祉、服飾手芸、ファッション造形、食文化など

看護

看護基礎、人体の構造と機能、成人看護、老年看護、小児看護、看護臨地実習など

福祉

社会福祉基礎、介護福祉基礎、コミュニケーション技術、こころと体の理解、介護実習など

この他、専門教科には情報・理数・体育・音楽・美術・英語がある。

(例) 専門学科

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年次	国語		地歴			数学		理科		体育	保健	芸術		英語		家庭	専門教科・科目										H R			
2年次	国語		公民			数学		理科		体育	保健		英語	専門教科・科目										H R						
3年次	国語		地歴			数学		理科		体育		英語	専門教科・科目										H R							

※専門科目による情報Ⅰ、総合的な探究の時間の代替を含む。

総合学科

- ・一人一人の進路や能力・適性、興味・関心に対応した教育課程を設けています。
- ・1年次には、「産業社会と人間」の授業で自己の将来の生き方や進路について考察し、2年次以降の進路選択に生かします。
- ・2年次より、自分の進路に合った系列(分野)を1つ選び、それに合った科目を選択することで学びを深めます。

《系列別の選択科目(例)》

人文社会の系列

実践国語、研究国語、グローバルコミュニケーション、環日本海諸国語、生活の書など

自然科学の系列

化学、物理、生物、数学Ⅲ、数学C、情報探究、無限と連続、地域の自然など

農業の系列

農業と環境、植物バイオテクノロジー、農業機械、食品微生物、食品製造、野菜など

美術の系列

素描、構成、絵画、造形基礎、造形表現、陶芸、ガラス工芸、美術入門など

体育の系列

スポーツ概論基礎、スポーツ実践、スポーツ医学と栄養、スポーツⅠ～Ⅳなど

家庭の系列

生活と福祉、保育基礎、ファッション造形基礎、フードデザイン、服飾文化、社会福祉基礎など

情報ビジネスの系列

簿記、原価計算、財務会計Ⅰ、情報処理、ソフトウェア活用、マーケティングなど

(例) 総合学科

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年次	国語			公民			数学				理科		体育	保健	芸術	英語					家庭		情報	社会と産業	H	R							
2年次	国語			地歴			数学				理科		体育	保健	英語		選択科目										総合	H	R				
3年次	国語			体育			英語				選択科目																総合	H	R				

一括募集について

○本県では、中央農業高校において一括募集を行っている。

1 年次	2 年次以降
<p>学科編制を行わず共通の教育課程とし、農業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</p>	<p>生徒の個性、希望進路などに応じて学科及びコースを選択し、各専門分野で、実験・実習や課題研究を行う。</p> <div style="background-color: #90EE90; padding: 10px; border-radius: 15px; margin: 10px 0;"> <p>生物生産科・・・作物科学コース・動物科学コース 園芸デザイン科・・・園芸福祉コース・環境緑化コース バイオ技術科・・・生物工学コース・食品加工コース</p> </div>

○他県の例

【愛知県立豊田工科高等学校】

1 学年 4 学科 6 学級：定員 240 名

(IT 工学科、機械科、自動車科、電子工学科)

募 集

- ・入学後 1 年間は共通の教育課程で工業の基礎科目（機械系科目、電気系科目、製図、情報など）を幅広く学ぶ。
- ・2 学年から学科別のクラス編成とし、学科の専門科目の学習を始める。
- ・選科時、各学科の定員に対して生徒の希望に偏りが生じた場合は、生徒と粘り強く話し合い調整。

進 路

- ・就職を希望する生徒が多い。卒業生の 8 割が就職。地元大手企業から求人多数。

【愛知県立総合工科高等学校】

1 学年 7 学科 9 学級（定員 360 名）

(理工科、機械加工科、機械制御科、電気科、電子情報科、建設科、デザイン工学科)

募 集

- ・一括募集で入学。
- ・1 学年の後期から（※同校は 3 学期制。10 月の 2 学期中間考査以降）学科に分かれて学習する。その際のクラス編成は入学時のままとし、全クラス時間割をそろえて同時に展開授業を実施している。
- ・実習設備の関係上、生徒の希望を調整して各学科の定員通りに収める必要がある。

進 路

- ・入学生の 7 割が進学希望。理工科は「大学進学を目指す」としている。

学科別卒業生の進路

(全県)

学科名	卒業年月	卒業生数 (人)	就職			進学						その他
			人数	割合	H26→R4	大学・短大等			専修学校等			
						人数	割合	H26→R4	人数	割合	H26→R4	
普通系学科	R4.3 卒業生	4,025	110	2.7	(▲ 0.4)	3,118	77.5	(4.1)	588	14.6	(▲ 8.4)	5.1
	H26.3 卒業生	4,364	134	3.1		3,201	73.4		1,003	23.0		0.4
農業科	R4.3 卒業生	133	69	51.9	(▲ 8.1)	20	15.0	(▲ 0.6)	44	33.1	(8.7)	0.0
	H26.3 卒業生	160	96	60.0		25	15.6		39	24.4		0.0
水産科	R4.3 卒業生	61	25	41.0	(▲ 22.2)	13	21.3	(12.5)	23	37.7	(9.6)	0.0
	H26.3 卒業生	57	36	63.2		5	8.8		16	28.1		0.0
工業科	R4.3 卒業生	996	620	62.2	(▲ 6.6)	186	18.7	(3.4)	182	18.3	(2.7)	0.8
	H26.3 卒業生	1,009	694	68.8		154	15.3		157	15.6		0.4
商業科	R4.3 卒業生	660	189	28.6	(▲ 7.6)	280	42.4	(3.8)	182	27.6	(2.5)	1.4
	H26.3 卒業生	697	252	36.2		269	38.6		175	25.1		0.1
家庭科	R4.3 卒業生	115	23	20.0	(▲ 10.8)	58	50.4	(23.0)	34	29.6	(▲ 10.6)	0.0
	H26.3 卒業生	117	36	30.8		32	27.4		47	40.2		1.7
看護科	R4.3 卒業生	41	0	0.0	(0.0)	41	100.0	(0.0)	0	0.0	(0.0)	0.0
	H26.3 卒業生	39	0	0.0		39	100.0		0	0.0		0.0
福祉科	R4.3 卒業生	29	10	34.5	(14.0)	7	24.1	(▲ 34.9)	12	41.4	(20.9)	0.0
	H26.3 卒業生	39	8	20.5		23	59.0		8	20.5		0.0
職業系学科	R4.3 卒業生	2,035	936	46.0	(▲ 7.0)	605	29.7	(3.9)	477	23.4	(2.5)	0.8
	H26.3 卒業生	2,118	1,122	53.0		547	25.8		442	20.9		0.3
総合学科	R4.3 卒業生	422	61	14.5	(0.6)	217	51.4	(1.4)	129	30.6	(▲ 2.4)	3.6
	H26.3 卒業生	460	64	13.9		230	50.0		152	33.0		2.4

※普通科、探究科学科、国際科を普通系学科として集計した。

※割合は、卒業生数に対する割合。なお、端数処理のため、各割合を合計しても、100.0%にならない場合がある。

学科別志願状況及び欠員状況の推移

(全県)

学 科	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		<参考> R6募集定員
	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	
普通科	1.05	18	1.11	13	1.10		1.04	20	1.02	36	0.99	14	0.99	31	0.98	65	1.01	39	0.99	63	3,240
探究科学科	1.08		1.26		1.51		1.86		1.91		2.13		2.00		1.75		1.65		1.70		240
国際科	1.14		0.96	6	1.10		0.98	8	0.96	6	0.68		0.88		0.84	5	0.55	37	0.57	47	135
農業科	1.00	12	1.21		0.89	21	0.80	32	0.72	31	0.76	44	0.76	55	0.72	33	0.81	47	0.75	41	156
水産科	1.86		1.58		1.39	1	1.19		1.46		1.56		0.93	3	1.15	2	0.81	12	0.74	11	60
工業科	1.34		1.33	1	1.26		1.23		1.24		1.30	22	0.99	54	1.10	54	0.85	99	0.87	89	995
商業科	1.25		1.20		1.14		1.33		1.24		0.95	2	1.21	1	0.97	8	1.12	4	1.37	8	640
家庭科	1.04		1.62		1.04		1.00		1.28	1	0.92	3	1.16	1	0.88	11	1.20		0.87	6	120
看護科	1.75		1.19		1.13		1.38		2.00		0.84	3	1.38		1.17		1.27		1.25		40
福祉科	1.50		0.75		1.13		1.40		0.80		0.53		1.20		1.27		1.40		0.47	6	30
総合学科	1.51		1.09		1.42		1.42		1.14		1.07	4	1.47		1.28	14	1.10	10	0.99	54	450
合 計	1.14	30	1.15	20	1.15	22	1.14	60	1.11	74	1.07	92	1.07	145	1.04	192	1.02	248	1.01	325	6,106

県立高校のあり方に関するアンケート調査結果

〔興味や関心のある学習〕（令和4年度新規調査） ※5つまで選択可

	中学校3年生					中3保護者
	全県	新川学区	富山学区	高岡学区	砺波学区	
① 文学、歴史、政治経済などの人文科学や社会科学に関すること	① 30.7%	④ 28.5%	① 29.5%	① 34.0%	② 29.4%	③ 25.8%
② 自然現象、天文、生命などの学習や物理などの自然科学に関すること	③ 27.8%	③ 29.9%	④ 25.3%	⑤ 22.6%	① 39.7%	④ 25.0%
③ 外国語や国際理解に関すること	⑤ 23.5%	23.4%	⑤ 24.1%	④ 23.8%	22.2%	② 49.8%
④ プログラミングやデータサイエンスなどの情報に関すること	21.6%	⑤ 26.3%	19.8%	19.6%	④ 23.8%	① 50.6%
⑤ 音楽や美術などの芸術に関すること	④ 27.5%	② 32.1%	③ 28.7%	③ 26.0%	⑤ 23.0%	13.3%
⑥ スポーツや健康に関すること	② 29.1%	① 32.8%	② 29.1%	② 28.9%	③ 25.4%	19.2%
⑦ 商品の流通・販売やコンピュータによる事務処理などの分野に関すること	13.5%	13.9%	12.7%	13.6%	14.3%	⑤ 24.8%
⑧ 機械の設計・製作や制御、金属の加工や熱処理、電子回路などの分野に関すること	12.8%	8.0%	12.7%	11.9%	19.8%	10.8%
⑨ 建築物の設計や施工、先端の測量技術を中心とした土木などの分野に関すること	8.2%	5.1%	8.0%	9.4%	9.5%	4.0%
⑩ 化学工学や地球環境化学などの分野に関すること	8.2%	5.8%	8.4%	8.5%	9.5%	7.5%
⑪ デザインや伝統工芸に関すること	18.5%	23.4%	18.1%	16.6%	17.5%	9.8%
⑫ 製薬技術や薬品分析などの分野に関すること	8.8%	9.5%	8.0%	8.1%	11.1%	8.5%
⑬ 作物・草花栽培や食品加工などの分野に関すること	6.1%	8.8%	4.6%	6.4%	5.6%	4.6%
⑭ 船舶操縦や食品製造などの分野に関すること	2.0%	1.5%	0.8%	3.4%	2.4%	0.4%
⑮ 服飾や食物、保育などの分野に関すること	12.1%	17.5%	14.8%	7.7%	9.5%	5.2%
⑯ 介護などの福祉に関すること	6.5%	8.0%	5.9%	7.2%	4.8%	9.4%
⑰ 看護、医療に関すること	14.4%	15.3%	13.5%	14.0%	15.9%	12.3%
⑱ 観光や郷土研究などの地域学習に関すること	4.4%	6.6%	3.8%	3.8%	4.0%	6.5%
⑲ 環境保全や防災に関すること	5.9%	5.1%	7.6%	4.3%	6.3%	12.1%
⑳ わからない	8.6%	5.1%	11.0%	9.4%	6.3%	7.9%
㉑ その他	0.7%	0.7%	0.8%	0.9%	0.0%	2.5%

〔学習内容について望むこと〕 ※3つまで選択可

	高校2年生		高2保護者		卒業生	
	令和4年度	平成17年度	令和4年度	平成17年度	令和4年度	平成17年度
① 基礎基本に重点を置いて、全員が共通して学習する科目を増やす	③ 27.7	27.0	15.1	19.6	③ 22.8	21.2
② 進路希望や興味関心に基づいて選択できる多様な科目を増やす	② 29.0	① 41.5	① 42.4	① 54.6	① 37.6	① 50.2
③ 進学に役立つ科目の時間を増やす	① 30.9	② 36.3	③ 28.2	③ 26.1	② 33.3	14.3
④ 就職に役立つ科目の時間を増やす	19.4	19.5	14.6	13.8	13.2	16.6
⑤ 大学などでの学びを先取りした高度で専門的な科目を設ける	4.9	7.7	3.1	4.0	5.8	6.9
⑥ 資格取得に役立つ実用的な科目を設ける	23.0	③ 28.2	② 32.5	② 37.8	21.2	② 41.3
⑦ 学校独自の特色あるユニークな科目を設ける	7.8	15.7	7.6	15.3	11.1	23.2
⑧ プログラミング、データサイエンスなどに関する科目を増やす	9.8	—	9.3	—	12.2	—
⑨ 企業などとの連携の中で、産業に密着した実習などの時間を増やす	4.7	—	11.1	—	5.8	—
⑩ ボランティア体験や就業体験などの体験的な科目を設ける	8.3	12.6	11.5	17.7	10.1	21.6
⑪ プレゼンテーションやディベートなどコミュニケーション関連の科目を設ける	6.4	4.6	17.5	19.4	19.0	③ 30.9
⑫ 文理の枠にとらわれず、様々な課題を扱う探究的な学習の時間を増やす	4.7	—	11.3	—	12.2	—
⑬ 地域社会の課題やニーズに着目し、社会課題の解決を扱う探究的な学習の時間を増やす	2.8	—	10.5	—	10.1	—
⑭ 望むことはない	13.9	10.2	3.6	4.8	6.3	2.7
⑮ わからない	8.7	5.9	6.2	4.4	2.6	1.5
⑯ その他	0.5	0.7	0.2	0.8	1.1	2.3

〔学習内容について望むこと〕 ※3つまで選択可

	高校2年生					高2保護者	卒業生
	全県	新川	富山	高岡	砺波		
① 基礎基本に重点を置いて、全員が共通して学習する科目を増やす	③ 27.7%	③ 24.3%	③ 28.2%	② 31.6%	③ 23.0%	15.1%	③ 22.8%
② 進路希望や興味関心に基づいて選択できる多様な科目を増やす	② 29.0%	① 30.0%	① 32.3%	③ 27.3%	① 23.9%	① 42.4%	① 37.6%
③ 進学に役立つ科目の時間を増やす	① 30.9%	② 29.3%	① 32.3%	① 34.6%	22.6%	③ 28.2%	② 33.3%
④ 就職に役立つ科目の時間を増やす	19.4%	20.7%	19.6%	16.5%	③ 23.0%	14.6%	13.2%
⑤ 大学などでの学びを先取りした高度で専門的な科目を設ける	4.9%	5.4%	4.9%	3.9%	6.5%	3.1%	5.8%
⑥ 資格取得に役立つ実用的な科目を設ける	23.0%	22.1%	23.3%	22.1%	② 25.2%	② 32.5%	21.2%
⑦ 学校独自の特色あるユニークな科目を設ける	7.8%	7.1%	7.8%	8.0%	8.3%	7.6%	11.1%
⑧ プログラミング、データサイエンスなどに関する科目を増やす	9.8%	9.3%	8.8%	7.8%	16.5%	9.3%	12.2%
⑨ 企業などとの連携の中で、産業に密着した実習などの時間を増やす	4.7%	6.4%	3.1%	5.4%	4.3%	11.1%	5.8%
⑩ ボランティア体験や就業体験などの体験的な科目を設ける	8.3%	12.9%	6.1%	8.2%	7.4%	11.5%	10.1%
⑪ プレゼンテーションやディベートなどコミュニケーション関連の科目を設ける	6.4%	9.3%	6.5%	5.2%	4.8%	17.5%	19.0%
⑫ 文理の枠にとらわれず、様々な課題を扱う探究的な学習の時間を増やす	4.7%	5.0%	5.9%	3.9%	3.5%	11.3%	12.2%
⑬ 地域社会の課題やニーズに着目し、社会課題の解決を扱う探究的な学習の時間を増やす	2.8%	3.2%	2.9%	3.2%	1.3%	10.5%	10.1%
⑭ 望むことはない	13.9%	13.9%	15.5%	12.8%	12.6%	3.6%	6.3%
⑮ わからない	8.7%	9.3%	8.6%	7.8%	10.0%	6.2%	2.6%
⑯ その他	0.5%	1.1%	0.4%	0.2%	0.9%	0.2%	1.1%

地域の教育を考えるワークショップ（学科・コースについての主なご意見）

○各学科共通

- ・学科を考えるときには、その内容(教育プログラム)を検討する必要がある。そこにお金と人材を投入しないといけない。
- ・学科・コースの選択肢が多すぎても不透明になる。学ぶこと、その次の進路について、明確にするべき。

○普通系学科

- ・普通科をどう魅力化するかが一番大事。普通科の教育にも学校単位の個性をもっと出してもいいのではないか。
- ・普通科の良さは幅広く教養を学べる点。STEAM教育やデータサイエンスなどの統計的な知識を学ぶことが大切。
- ・文系理系を問わずデータサイエンスの素養が求められているため、早い段階から科目として学習する必要がある。
- ・環境、地域、経済、観光など地域の資産をターゲットにした探究活動の時間を増やししながら、進学にもシフトしていけるような普通科をつくるべき。
- ・普通科の中に、就職を考えるコースがあると、目的意識をなかなかもつことができない生徒にとってもよいのではないか。

○職業系専門学科

- ・県立大学と工業高校の連携など高大連携をもっとすべき。
- ・地域連携という視点では、デュアルシステムも取り入れながら、学校では座学、企業では実習という取組みも考えられる。
- ・仮に一括募集で専門性が薄くなっても、幅広く学び自分に合ったものを選ぶことで就職後のミスマッチを防ぐことができる。本当に必要なことは就職後に企業で教える。
- ・地域の安全・安心を守るという点で、除雪、災害対応にあたる人材が高齢化している。そうした視点の大切さを若い人に学んでもらうため、建設系の学科を設置してほしい。
- ・職業系専門学科では、6次産業化や起業を視野に入れた力を身に付けられるとよい。
- ・農業は科学技術の進展により、これまでの農業とは違ってきている。生産だけでなく、流通、生産までを視野に入れた教育課程が必要。
- ・商業科の進学率が高いので、普通科コースにして一括募集し、入学後に選択する方法が分かりやすい。

○総合学科、総合選択制高校

- ・出口である進学か就職かで高校を選ぶのではなく、高校時代に学びながら進路を選択できるような学科を設置してはどうか。
- ・総合選択制高校はこれからの高校の一つのあり方。普通科にいても、横断的に他学科の科目を学べる、枠を超えた科目選択ができることが魅力。

	課 題	見直しに関する意見
各 学 科 共 通	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の見える化（魅力発信） ・中学校段階での選択の難しさ ・社会のニーズと子どものニーズのバランス ・教員の配置 ・施設、設備の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム（何を学ぶか）の検討 ・グローバル化への対応 ・ICTの活用促進 ・地域、企業、大学等との連携充実 ・多様性への対応 ・就労体験の充実
普 通 系 学 科	<ul style="list-style-type: none"> ・偏差値偏重 ・理系離れ ・目的がなく選択する生徒 ・多様な学力水準への対応 ・コースの内容や卒業後の進路の分かりにくさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスの推進 ・情報活用能力の向上 ・科学技術に特化した学習 ・DXの推進 ・グローバル化への対応 ・海外留学 ・大学進学に強い力の育成 ・探究活動の充実 ・教養教育に特化した学習 ・基礎学力の向上 ・複数コースの設置 ・スポーツ、芸術等に特化した学習
職 業 系 専 門 学 科	<ul style="list-style-type: none"> ・進学割合の増加への対応 ・就職割合の低下 ・志願倍率の低下、欠員の増加 ・学科名の古さ ・一括募集にした場合の専門性の低下 ・一括募集入学後の学科選択の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携充実 ・企業現場経験者による授業の拡大 ・職業に直結した学科の設置 ・取得資格の充実 ・複数学科の連携活動 ・工業デザイン系の充実 ・環境を視野に入れた学科の設置 ・デュアルシステムの導入 ・起業家精神の育成 ・アントレプレナーシップ教育の推進 ・一括募集の実施
総 合 学 科	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性に欠ける学習内容 ・卒業後の進路の分かりにくさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びの確保 ・普通科要素の確保 ・進路目標を考える機会の提供
そ の 他		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に特化 ・県立大学と連携した人材育成 ・特色ある学科 （例）マンガ学科、アニメーション学科、鉄道学科など

今後の学科・コースの見直し(案)

県立高校教育振興検討会議の提言を基に、ワークショップでのご意見（___下線部）も踏まえ、次のような視点に立った学科・コースの新設を検討する。

(1) 普通系学科

- 「情報活用」や「データサイエンス」についての基礎を学ぶことができる。
- グローバル化の進展に対応できるよう、文系、理系を問わず英会話力を高めつつ、探究活動に取り組むことができる。
- 大学などの高等教育機関等との連携により、人の成長や発達について学ぶことができる。
- 進路希望に合わせて、多様な科目の中から選択して学ぶことができる。
- 地域と連携し、地域課題等をテーマとした探究活動を行うことができる。
- スポーツに深い関心を持つ生徒が、個々の能力を最大限に発揮できるよう、スポーツに関する様々な種目・理論を幅広く学習することができる。

(2) 職業系専門学科

①農業科

- SDGsの実践、AIやIoTの利活用、スマート農業技術の導入など、これからの農業に向けた知識や技術を身に付ける。
- テクノロジーを生かした農業教育の実践、社会のニーズを汲み取った教育課程。
- 大学などの高等教育機関や地域など、学校外との連携。

②工業科

- IT技術や産業用ロボット等を活用したデジタルものづくりの知識や技術を身に付ける。
- 地場産業においてデザインで付加価値を上げていくことができる知識や技術を身に付ける。
- 近年多発する自然災害等を踏まえ、各学区で防災や社会基盤の維持などに関連した教育課程。

③商業科

- 起業家精神を学ぶ取組みの充実を目指す。
- 模擬株式会社等の取組みや大学との連携など、これまでの様々な取組みを継続、充実させる。
- 商業科を普通科コース等に改編する場合の効果と課題について研究する。

すみやかに検討する学科・コースの見直し（案）

社会の変化、生徒や地域、産業界のニーズを踏まえ、スピード感をもって対応した方がよい学科・コースの見直しについて検討する。

今回 : 工業科（砺波工業、魚津工業）
 : 農業科（中央農業）

次回以降 : 普通科系学科、商業科、その他学科

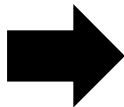
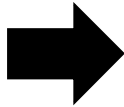
工業科

- ・ 社会の変化に応じた学科、コースへの改編
デジタルものづくり、工業デザイン、防災・社会基盤維持など

《考え方》

1. 近年多発する自然災害等を踏まえ、防災や社会基盤維持を学ぶ場の拡充が必要であることから、現在、建設系学科が設置されていない砺波学区(砺波工業高校)に地域デザイン学科(仮称)を設置してはどうか。
2. 高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)が実施される砺波工業高校、魚津工業高校においてデジタルものづくりの推進、工業デザインを学ぶ場の確保等を目指した学科改編を実施してはどうか。
3. 1、2を踏まえ募集方法を見直してはどうか。
⇒中学校段階では、機械科、電気科等の小学科を選択することが難しいとの意見が多いことから、比較的小学科数の少ない魚津工業高校、砺波工業高校において一括募集を実施。
 - ・ 生徒募集にあたっては「工業科(仮)」として募集。
 - ・ 1年前半は工業基礎科目を幅広く学ぶ。
 - ・ 1年後半からは興味・関心や進路希望に応じた学科・コースに分かれ学ぶ。

(案)

対象校	実施年度	改編内容
砺波工業	令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械科 ・ 電子科 ・ 電気科  <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域デザイン学科(仮) <ul style="list-style-type: none"> 〔都市デザインコース(仮)〕 〔進学コース(仮)〕 ・ メカトロニクス学科(仮) ・ 電気情報システム学科(仮) <ul style="list-style-type: none"> 〔パワーエレクトロニクスコース(仮)〕 〔ITデザインコース(仮)〕
魚津工業	令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械科 ・ 電気科 ・ 情報環境科 <ul style="list-style-type: none"> 〔電子機械コース〕 〔化学工業コース〕  <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械創造科(仮) ・ 電気情報科(仮) ・ IT・環境化学科(仮) <ul style="list-style-type: none"> 〔ITシステムコース(仮)〕 〔環境化学コース(仮)〕

2校共通

スマート専門高校、DXハイスクールにより導入される設備を教材化し、その発信に努める。

砺波工業高校

- 地域デザイン学科（仮）
 - ・都市デザインコース（仮）：社会を支える施設の建設・維持管理に必要な土木、建築の基礎を学ぶ。
 - ・進学コース（仮）：数理分野と工学（機械、電気、情報）の基礎分野を万遍なく学び、進学に対応したカリキュラムを実施する。
- メカトロニクス学科（仮）
 - ・メカトロニクスの基礎となる、機械設計・加工技術・自動制御などの理論と技術を学ぶ。
- 電気情報システム学科（仮）
 - ・パワーエレクトロニクスコース（仮）：発電・送電・配電などの理論と技術を学ぶ。（主に強電、資格）
 - ・ITデザインコース（仮）：AI、IoTを活用した生産技術や自動運転技術などの先端技術について学ぶ。（主に弱電、ソフト）

魚津工業高校

- 機械創造科（仮）
 - ・機械に関する知識や理論のほか、実践的な機械実習による様々な加工技術を身につけるとともに、IT先端技術を用いた創造的なものづくりを学ぶ。
- 電気情報科（仮）
 - ・電気・情報に関する知識・理論や、電気電子回路の設計・製作、制御や組込みプログラム等を学ぶとともに、社会のインフラを支えて地域貢献できる知識や技術を身につける。
- IT・環境化学科（仮）
 - ITシステムコース
 - ・プログラミング、インダストリアルデザインや様々な事象のシミュレーションをする技術を学ぶとともに、ITを活用したデジタルものづくりに必要な知識や技術を身につける。
 - 環境化学コース
 - ・持続可能な社会の実現に向け、化学に関する知識や理論を学ぶとともに、環境分析や機器分析など環境問題に取り組むために必要な知識や技術を身につける。

農業科

- ・テクノロジーを生かした農業教育の実践
SDGsの実践、AIやIoTを活用したスマート農業技術の導入など

《考え方》

1. 中央農業高校農業科においては、平成15年度の学科改編以降、大きな変更が行われていない。社会が求める持続可能な食料生産・社会・環境に貢献できる人材育成のために、各コースが目指してきたものを再整理し、中学生がより学んでみたいと思える学科・コースへの改編を実施してはどうか。
2. 募集方法については、これまで同様、一括募集を継続する。

(案)

対象校	実施年度	改編内容
中央農業	令和8年度	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: left; padding-right: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・生物生産科 〔作物科学コース 動物科学コース〕 ・園芸デザイン科 〔園芸福祉コース 環境緑化コース〕 ・バイオ技術科 〔生物工学コース 食品加工コース〕 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 20px;">➔</div> <div style="text-align: right; padding-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培系学科（仮） 〔農業経営コース（仮） バイオフィラワーコース（仮）〕 ・飼育系学科（仮） 〔畜産経営コース（仮） 小動物コース（仮）〕 ・活用系学科（仮） 〔食品コース（仮） 環境コース（仮）〕 </div> </div>

○栽培系学科（仮）

- ・農業経営コース：主穀作、園芸作物（野菜）の栽培から販売について学ぶ。
スマート農業、6次産業化、複合経営、地球環境に配慮した持続可能な農業等について学ぶ。
- ・バイオフィラワーコース：鉢花生産及びバイオテクノロジーの技術を習得し、園芸作物（花卉）の栽培から販売、遺伝子資源の保存について学ぶ。

○飼育系学科（仮）

- ・畜産経営コース（仮）：肉牛の飼養・繁殖、飼料作物の栽培、畜産経営等について学ぶ。
- ・小動物コース（仮）：愛玩動物の飼育、活用、保護等について学ぶ。

○活用系学科（仮）

- ・食品コース（仮）：農産食品の製造・開発、地域資源の活用、新しい県産食品の創造等について学ぶ。
- ・環境コース（仮）：造園の基礎、サクラ等樹木の維持管理の基礎、花苗生産とその活用等から環境保全・創造について学ぶ。

令和6年度 第1回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果

資料11

日時：令和6年5月20日（月）10:00～11:50

場所：富山県民会館 704号室

出席者：経営管理部次長（座長）、私学関係者5名、県教育委員会5名、学術振興課長 計12名

（出席者からの主な発言・意見等）

1 令和7年度の募集定員について

（1）南砺平高校における全国募集の実施について

- ・ 今後の生徒数減少を踏まえると、県外募集をするなら早く開始することが望ましい。
- ・ 全国の例をみても、急な病気などに対応するため、地域で身元引受人を確保している。

（2）高岡龍谷高校における通信制課程の認可申請について

- ・ 令和7年度から新たに通信制課程を設置するための計画申請を行った。現在、認可申請に向けて準備中。
- ・ 県西部には通信制課程を有する高校がないため、主に県西部を対象とした狭域での通信制課程を想定している。

2 令和8年度以降の公私比率等について

(1) 公私比率について

- 現在設定している対象外比率を撤廃し、全体を100として公私比率の目安を決めてはどうか。
- 例えば石川県の7：3などに将来的に徐々に移行するような設定があれば良いのではないか。
- シミュレーションがないとわからない。何かしらの数字的な根拠を示してほしい。

(2) 県立高校における2次募集について

- 例年、県立高校の2次募集により入学予定者数が大きく変動しており、私立高校の学級編成、体制構築に苦慮している。
- 中学校での進路指導に基づく本人の意向尊重、及び私学経営への影響に配慮した2次募集のあり方、ルール作りを検討いただきたい。

(3) その他

- 職業科に加え、普通科のPRについても強化が必要。
- 県立高校の募集倍率が低下している。県立高校としてある程度の募集倍率を維持するべきではないか。
- 物価高、人件費高騰が顕著である。公立の教員の教職調整額の拡充と同様の対応をすることは私学では難しい。経営の安定のため、経常費支援の拡充をお願いしたい。
- 今年度も中学校長会から来ていただき、中学校長会としてのお話を伺いたい。
- 公私でいろいろな意見交換ができればよい。

地域の教育を考えるワークショップの主なご意見

第1回ワークショップの概要

開催日時

【新川学区】 5月27日（月）14時～16時：新川文化ホール

【富山学区】 6月 3日（月）14時～16時：富山県民会館

【高岡学区】 5月30日（木）14時～16時：高岡文化ホール

【砺波学区】 5月29日（水）14時～16時：砺波市文化会館

テーマ

グループワーク① 「提言」及び「県立高校の目指す姿」について

グループワーク② それぞれの学区の目指す姿について

第2回ワークショップの概要

開催日時

【新川学区】 7月 2日（火）14時～16時：スカイホテル魚津

【富山学区】 6月28日（金）10時～12時：富山県民会館

【高岡学区】 7月 9日（火）14時～16時：高岡エクール

【砺波学区】 7月10日（水）10時～12時：サンキューア・ミューホール

テーマ

グループワーク① 学科・コース

グループワーク② 様々なタイプの学校・学科、特色・魅力ある学校づくり

第1回ワークショップの主なご意見

テーマ①：「提言」及び「県立高校の目指す姿」について（全学区のワークショップより）

項目	ご意見の概要
提言	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある高校づくりが「主」で、その結果としての再編統合は「従」である。その目的と手段を逆にするとおかしなことになる。 ・「学びたい学んでよかった」という視点はよい。子どもが何を学びたいのか。生徒が学びたいと思えるような学科、学習内容、活動があるとよい。そのためには、生徒が何を考えているかを反映できるとよい。 ・提言は、現実的で実効性がある。学科と学校規模をかけ算しながら、その価値や、学校を高めていこうという発想だと思う。 ・大きく軸を分けてある（学科構成と学校規模）というのが面白い観点であった。 ・「学びの質の向上」という視点において、学習活動、部活動、職業教育などそれぞれに特化した学校があるとよい。 ・提言や目指す姿に目新しさは感じない。人間性育成にも適った小規模校はなぜだめなのか。 ・提言の内容は、小中高に共通の内容になっている。富山県として特色ある高校をつくるならば、もっと富山県としての特色ある部分が必要。 ・提言にあるように、基本的には「その高校で何を学べるようにするのか」、「富山県として、どのような人材を育成したいのか」を考えていくべき。 ・子どもたちに多様な選択肢を提供することは大切で、様々な学科を備えた一定規模の高校が必要。 ・提言に子ども中心の視点に立ち、幅広い選択肢を確保するとあるが、中学校卒業段階で選択できない生徒もいる。入学後に学科の変更ができるなどの仕組みがあるとよい。 ・昔は、学校の特色よりも偏差値や家からの距離で進学先を選んでいった。県内私立高校や県外の高校に進学する生徒も増えているので、提言に、「生徒の幅広い選択肢の確保」とあるのはよい。 ・提言はまとまっていて分かりやすい。それを受けて各高校は魅力をどう伝えていくか、中学校側は情報をどう受けていくのが課題。 ・人口減少の中、現状維持は難しい。思い切った方向に舵を切ることも教育には必要。

(全学区のワークショップより)

項目	分類	ご意見の概要
目指す姿	連携	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する子どもたちの学びにどうやって学校は対応していくのか、教員だけでは負担が大きいので、民間や企業が学校をサポートしていただければよい。 ・中高の連携が盛んになるとよい。中学生が高校の授業を見ることで、やってみたいと思う機会になる。また、高校の教員が中学校の授業を見ることで現状を把握することができる。
	進路選択	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科に進学してくる生徒は夢がはっきりと決まっていない。進路が定まっていない子どもにも対応できる学校であることが必要。 ・普通科に何気なく進学している生徒にこそ、入学後にいろいろなコースを選択できるようにすることも必要。 ・生徒たちに多様な学科を用意し、括り募集で入学後に選択の機会を提供できれば、わくわく感を高めることにつながる。
	特色	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の議論の中に部活動が取り上げられていない。進路選択の理由の中に「部活動」を挙げる子どもが多い。看板となる部活動を設置した高校を各地域に配置し、集積してもよいのではないか。 ・学力で高校を選ぶ中学生が減っているというアンケート結果もある。以前より学力以外の魅力で選ぶようになってきた。その魅力を考えていく必要がある。 ・授業の方法も変わってきている中、点数に表すことができない非認知能力をどう評価するかという課題もある。点数で輪切りにするのではなく、それぞれの子どもの能力を評価できる入学者選抜の方法があるとよい。それが魅力ある高校づくりにもつながる。
	配置	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の志向・動向を分析し、既存の学校を念頭に置かず、ゼロベースで望ましいあり方を検討すべき。 ・幅広い学びの選択肢を確保するために中～大規模が必要で再編は避けられない。 ・今 13 市町に高校はあるが、地域とのつながりもあるので、再編統合でどこを再編するかという話になると思うが、是非すべての 13 市町に高校は残してもらいたい。 ・提言には、「各学区に配置することが望ましい」とあるが、様々なところに高校があり教員配置を薄めるのではなく、子どもが移動するところにコストをかけるべき。予算、人材、時間の使い方を無駄なく検討してほしい。

テーマ②：〇〇学区の目指す姿について

《新川学区》

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業と協働した教育ができる素地がある。 ・地域の人と一緒に学校づくりをしている印象。特に職業科で感じる。 ・一部の地域では、富山学区への流出が問題となっている。新川学区だけで考えていくのは難しい。 ・高校がバランスよく配置されている。いろいろなところに公共交通機関を使って通学できることが新川学区の魅力の一つ。一か所に集まりすぎていると電車に乗る機会がなく、新たな出会いもない。 ・コンパクトな範囲に、歴史のある博物館や県外にはない博物館、高等教育機関、企業などがたくさんある。地域や企業など産官学の繋がりは大変であり、それが実現しやすい環境にある。 ・強みは農業だが、子ども達を地元に残らせることを考えるか、世界に出ていくことを考えるか。 ・就職先は新川なのか。富山や日本、世界と選択肢はある。新川で完結させると狭い。 ・農業もあるし、最先端だけではない、深い学びができる環境がある。AI と対極にある、深い学びを提供できる可能性がある。最先端に飛びつくだけでなく、基礎的な学びを大切にしたい。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な総合職業高校で1年～2年は共通に学び、3年になって選択するような考え方に立てば、その中に普通科があってもよい。 ・高校は、広い交流が必要。いろいろな人と出会える学校が必要。普通科だけでなく、職業科の生徒とも交流できる学校もよい。 ・他県の孤島の高校に比べ、富山県は泊駅から富山駅まで電車で50分で通学できる環境にある。そう考えると、この地域に普通科高校が1校あり、幅広い生徒がいるようにすると入学試験も楽になるのではないかと。幅広い生徒の中で、どういう努力をしてどこに行くかという発想もある。 ・偏差値偏重ではなく、もっと幅広い学校をつくるのも一つの考え方。入学後に色々な選択肢から選んでいく制度もよい。 ・工業高校はもっと企業と連携すべき。新川学区にある企業は地元意識も強い。他県では、企業の方から指導を受けることができる工業高校がある。企業と連携して授業を行うことで、先生の働き方改革にもなる。 ・地域に根差した学科を置くということについては、職業科の内容も昔と変わってきている。職業科の生徒は、卒業後、地域で働いている。将来への道が見える化されている高校が大事。職業と直結する高校があるとよい。

《富山学区》

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県庁所在地であるため、他学区にはないものがある充実した学区である。 ・ 公共交通機関が整備されており、東西南北どこへでも移動しやすい。その結節点が富山駅であるため、その環境を利用できるとよい。 ・ 私立高校を含め、様々な校種がある。その中で、私立高校に魅力を感じている生徒が増えている。 ・ 進学校、即戦力となる人材を育てる職業科、総合学科などバランスよく配置されている。 ・ 普通科が多く配置されているが、保護者からの進学への期待が大きく、学校ごとの特色がない。進学実績ではなく、それぞれの魅力づくりが必要。 ・ 学区として高校を見る視点がなかった。一般的な市民の感覚としては特徴と言われてもよくわからない。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他校の授業を受けることができるシステムや、探究活動での様々な職業科間の連携があるとよい。 ・ 企業と学校の求める人材像のすり合わせができていない。経済界と現場の先生方との交流がもっとも必要。 ・ 公共交通機関の整備状況なども踏まえ、富山学区にある程度の選択肢を用意し、他学区には富山学区にない選択肢を用意するのがよい。少子化の中、学区間の平等性を確保することは難しい。 ・ 人口が多く、交通の便もよいので国際バカロレア認定校や中高一貫教育校もつくることのできる。こんな学校があればよいが人を集めにくいといった高校を中心部につくればよい。 ・ 今後、学校数を減らしていかなくてはならないのであれば、学習活動、部活動、職業教育などに専門特化したものを富山市に集め、好きなことにそれぞれのペースで取り組むことのできる学校を他学区に配置するなど学区によって分けていく方法もある。 ・ オンラインを使って他校と連携し探究活動を行えるとよい。しかし、対面とオンラインを捌くのは現実的に難しい。サポート支援員がいてくれたらもっと充実する。 ・ 企業として、高校生に求める「専門的な知識」はどの水準なのか。学科改編が起こり、融合的になったときに、専門性が薄まる可能性があるのではないか。高校と企業とのつながりの観点でも検討が必要。 ・ 職業科の名前が古い。 ・ 募集定員に満たない学科、私学への専願者の増加など、PRの見直しが必要。中高の連携によって、魅力を発信できる。

《高岡学区》

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と深くかかわる農業、漁業等の学科、デザインや工芸などの学科がある。こうした一つのことに思い切り取り組むことができる学科はよい。 ・地域性といっても、他県に比べてはっきりとあるのかよくわからない。 ・3市だけのコンパクトな高岡学区は、ある程度の公共交通機関もあり、地理的にどの学校にも行きやすくなっている。つまりは、どこにでも行けるからどこにでも行こうとする流出につながっている。 ・城端線・氷見線沿いに多数の高校があり、一つの駅でいろいろな学校の生徒が一緒になったり、街中を通学しているところがよい。 ・高岡学区と砺波学区を合わせた姿が、歴史的にも文化的にも理にかなった姿。十字に鉄道でつながっている地域性がある。通学条件が適うなら、高岡学区と砺波学区を区別する意味はなくなってくる。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自然条件を生かした特色ある学科や文化・産業を生かした多種多様な学科があり、伝統がある。これを今後も生かしていくために、地域連携を進めるべき。 ・偏差値一辺倒ではなく、ユニークな人、夢のある人、自分のやりたいことをしている人、こういった人を確立できる人材育成が指針になる。 ・自分の知っている仕事の中から就きたい仕事を考え、大学に進学する職業観に基づく生徒もいるが、職業観に基づかない生徒のためにも、普段からキャリア教育やそういった働きかけをしていくことが大事。 ・中学校段階で進路が決まっていない生徒は職業科を選択しないので、普通科でも、途中から農業のことを学ぶことができる総合学科的なものがあってもよい。 ・親として高校への通いやすさを求めるが、子どもたちは制服がかわいい、食堂があるといったことを求めているようだ。食堂を再開したり、大学並みに充実したりした方が特色としてわかりやすい。 ・提言に多様な選択肢とあるが、子どもが減っていく中では限界があるだろう。専門的な学科がなくても、子ども達が学びたい、興味があるといったことを教員や親がICT等も活用して、サポートできる雰囲気があるとよい。 ・生徒・保護者に見える化されていないので、今ある普通科コースをどう情報発信していくか考える必要がある。

《砺波学区》

分類	ご意見の概要
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然条件こそが魅力の1つ。農業科の人気があり、農業で移住してきている人もいる。 ・ 自然だけではなく、企業など1次、2次、3次産業がバランスよくあるのが特徴だと考えている。学科はバランスよく配置されている一方、交通面で不便さがある。土日の部活動のことを考えると、親ばかり頼れない。 ・ 少ない学校数ではあるものの、学科が幅広く設置されており特色としては結構ある。 ・ アクセスの良さから、金沢市の私立高校に進学する中学生が増えている。 ・ 小中高で連携しており、今後も生徒たちや先生方の交流を通して高校の魅力を生徒たちに伝えていける。
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的が決まった人にフォーカスされた意見が多かったが、実際は大半がなんとなく大人になって働いていてという人たちだろう。いろいろなことが見えるようにすることが一番大事なのではないか。 ・ 中高一貫という形ではなく、中で繋がっていればよい。教員がそれぞれの現場を見て、知って、刺激を得ていくことで、「保守的な富山県が変わった」と言われるのではないか。 ・ 石川高専に進学する生徒もいる。中学時代から目的を持って進学を考えている生徒のために、県立大学と連携して、人材育成をするコースがあっても良いのではないか。 ・ 学校数が少なく、地域もコンパクトだから繋がりが強い。教員同士の繋がりが、高校生と中学生の繋がりが、地域との繋がりが。子どもたちが心から地元の良さを知ることによって安心感が高まれば、中高間の壁がなくなっていく。こうした活動を地道に浸透させていくしかない。 ・ 砺波学区という括りだけでなく、せめて砺波、高岡学区の範囲で、県外へ流出しない、県外からも生徒を呼べるような高校のあり方を考えることが大事。 ・ 小学校5年生の時点で、県内県立高校が選ばれない状況が現実にあるので、中学校選択の時点で各自治体に考えてもらいたい部分もある。 ・ 特色ある高校を富山市ばかりに集めずに県内に分散させる。 ・ 一定の中学校出身者が多い状況ではなく、様々な中学校から通うことができるようになるとうよい。

第2回ワークショップの主なご意見

テーマ①：学科・コース

	ご意見の概要
各学科共通	<ul style="list-style-type: none"> ・学科を考えるときには、その内容(教育プログラム)を検討する必要がある。そこにお金と人材を投入しないとイケない。 ・学科・コースの選択肢が多すぎても不透明になる。学ぶこと、その次の進路について、明確にするべき。 ・学科・コースの話をするにあたって、どこまでの自由度があるのか、県教委は明確にしてほしい。でなければ、建設的な議論ができない。現実的にできることを議論したいので、目に見える形で、議論の材料を用意してほしい。 ・既存の学科を考慮せず検討すべき。 ・学科・コースで新しいものをつくるならば、熊本県のマンガ学科のように町の協力やプロとの連携がないと難しい。 ・インターンシップがイベントではなく、キャリア教育の一つとして認識されたいのではないかと。 ・高校段階で、地域と接する機会があることで、一度県外へ出たとしても地元に戻ることにもつながるのではないかと。 ・わかりやすい特色を打ち出さなければ、生徒・保護者に伝わらない。 ・特色・魅力について、子どもの意見も大事だが、大人としての先を見据えた知恵も大切。子どもの見えていないところに気を付けてやっていけばよい。
普通系学科	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科をどう魅力化するかが一番大事。普通科の教育にも学校単位の個別性をもっと出してもいいのではないかと。 ・普通科の良さは幅広く教養を学べる点。STEAM教育やデータサイエンスなどの統計的な知識を学ぶことが大切。 ・学び方を学ぶことが必要。特に普通科では探究活動の中で、今まで以上に地域と連携した活動ができるとよい。 ・文系理系を問わずデータサイエンスの素養が求められているため、早い段階から科目として学習する必要がある。 ・共通テストでも「情報」が必修化されたところであるし、DXでリードしていく学校があればいい。 ・環境、地域、経済、観光など地域の資産をターゲットにした探究活動の時間を増やしながら、進学にもシフトしていけるような普通科をつくるべき。 ・普通科の中に、就職を考えるコースがあると、目的意識をなかなかもつことができない生徒にとってもよいのではないかと。 ・大学の様子を見ると、デジタル・理数分野の取組みが進んでいる。富山県にも、情報学科が必要なのではないかと。 ・大学進学のための力をつける学校が必要。 ・前回からの話を聞いていると、学校側の魅力発信がまだまだで、中学校などに届いていないのではないかと。STEAM教育や地域連携を踏まえた探究活動、部活動など、進学実績とは違う特色をもう少し明確に打ち出すことが必要ではないかと。

	ご意見の概要
職業系専門学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立大学と工業高校の連携など高大連携をもっとすべき。 ・ 地域連携という視点では、デュアルシステムも取り入れながら、学校では座学、企業では実習という取り組みも考えられる。 ・ 地域の安全・安心を守るという点で、除雪、災害対応にあたる人材が高齢化している。そうした視点の大切さを若い人に学んでもらうため、建設系の学科を設置してほしい。 ・ 職業系専門学科では、6次産業化や起業を視野に入れた力を身に付けられるとよい。 ・ 農業は科学技術の進展により、これまでの農業とは違ってきている。生産だけでなく、流通、販売までを視野に入れた教育課程が必要。 ・ 商業科の進学率が高いので、普通科コースにして一括募集し、入学後に選択する方法が分かりやすい。 ・ 中学生にとっては、電気や機械などに分かれていることに抵抗感がある。そういうことも考えて学科・コースや学習内容を考えていく必要がある。 ・ 職業科は、これをやりたいというものがある。しかし、離職率を考えるとミスマッチがあると思われる。高校3年間で選択した道でよいのか考えるために社会を知る場が必要。 ・ 仮に一括募集で専門性が薄くなっても、幅広く学び自分に合ったものを選ぶことで就職後のミスマッチを防ぐことができる。本当に必要なことは就職後に企業で教える。 ・ 企業では、建築、デザイン、土木など様々な分野に女性がいる。斬新なネーミングにすることで工業高校に進む女子生徒もいる。
総合学科・総合選択制高校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出口である進学か就職かで高校を選ぶのではなく、高校生時代に学びながら進路を選択できるような学科を設置してはどうか。 ・ 総合選択制高校はこれからの高校の一つのあり方。普通科にいても、横断的に他学科の科目を学べる、枠を超えた科目選択ができることが魅力。 ・ 15年後に子どもが3割減ることをチャンスと捉え、総合選択制のような高校にしたらよい。 ・ 社会情勢の変化のスパンが短い現代においては、教育に求められるニーズはもとより、子ども達が身に着けている力もこれまでと変わってきているので、短いスパンで変化に対応できる教育がよい。総合選択制だと、子どもたちのニーズに柔軟に対応できていいのではないか。 ・ 総合学科は、これまでの取組みを生かし、アプリ等ソフト面でのクリエイティブ人材の育成が中心となるとよい。ハード面は専門学科で学べるとよい。

テーマ②：様々なタイプの学校・学科、特色・魅力ある学校づくり

ご意見の概要	
中高一貫教育校	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校は6年間で柔軟なカリキュラムを作って学べるのがメリット。 ・中学生にとっては、高校生を身近に見ることができるため、自然な形で上級生の姿を浸透させることができる。 ・中高一貫教育校はどのような人材を育成するためなのかという明確な目的が必要。たとえば、IT人材育成、医学部進学など。 ・限られた時間や人的リソースのことを考えると、3年ごとに学校を変えることや受検があることは、時間的にも学び方的にも効率が悪いため、首都圏を中心に中高一貫教育が人気になっているのではないか。 ・中高一貫教育校などは、よい取組みだとは思いますが、生徒の減少が部活動の減少や学級編制の困難さに結びついている公立中学校が増加する中で、地域の生徒がさらに少なくなるといった課題をしっかりと整理する必要がある。 ・中高一貫教育校は、中学校3年生での受検を圧縮する形で導入している例が多いのだろう。県全体では必要だが学区ごとに設置する必要はない。
国際バカロレア認定校	<ul style="list-style-type: none"> ・企業も国際化に力を入れているので、バカロレア認定校は是非作ってもらいたい。海外から戻ってきた人の選択肢にもなるのではないか。 ・バカロレアについて、IB資格の取得のハードルは高いが、バカロレアで行われる双方向・協働型の学びのスタイルは現代の授業では非常に重要な考え方。 ・富山にいても日本や世界とビジネスができる社会において、これからの教育に必要なのは地域愛やアイデンティティー、誇りだと思っている。富山では学べない分野もあると思うが、中高一貫やバカロレア、イエナプランといった教育を選択できるようにし、小中高の中でどのように連携できるかを考えていただきたい。 ・国際バカロレア認定校は、教員の配置も必要になる。需要と供給のバランスの視点で検討すべき。現在も国際科が設置されているので差別化が必要。 ・国際バカロレア認定校は、少人数の生徒にしか対応できない。ニーズがあるかもわからない状態であり、導入するのであればその必要性を示す必要がある。また、出口(卒業後の進路)をしっかりと示さなければ、希望者は集まらない。 ・バカロレアのカリキュラムシステムが知りたい。自由なところが魅力だが、そこで働ける教員はいるのか。

ご意見の概要	
外国人生徒に係る特別定員枠	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は、日本で学び本国に帰る生徒が多かったが、現在は、日本社会の中で生きていこうとする生徒がほとんどである。県立でも受け入れ先を確保してもらいたい。 ・製造業が多い富山県のことを考えると、外国人の対応について検討するのがよい。在留資格によっては、子どもを呼ぶことができるようだが、例えば母親が日本語習得をしながら仕事をする場合、子どもが孤立しやすい環境にあり、社会的課題の一つになっている。子どもであれば富山で育ったアイデンティティーを持つチャンスなのではないかと思う。 ・外国人の特別枠があればいいのだが、個々の力に応じて進学できればいいのではないかと。受け入れる現場の先生の負担も大きいですが、安心して学べる環境を作ってあげたらいい。
全国募集	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学科に特色のある学校で全国募集をしてはどうか。 ・全国募集の受け入れについて、富山に移住したい人たちのニーズに乗り、広げていけたらいいのではないかと。富山の薬や、和紙など全国に誇れる富山県の産業をPRしていけばいいのではないかと。 ・全国募集をして、流出が進んでいるのであれば外から呼べばいいという考え方で、富山の魅力を発信し、外から来た人材を育成していくというパターンがあってもよいと思う。 ・全国募集は選択肢を広げるという点では大事だが、子ども達が減る中、生徒の取り合いになり解決には至らない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なタイプについては、学区だけでは考えられない。富山県を一つとして、特色のある学校を分散させるのがよい。 ・大規模校があればよいと思っている。カウンセラーの数を増やして、先生の負担を減らしたらいい。大規模だと部活動も、バリエーションができるので、多様な生徒の希望に応じた部活動が設置でき、学年を超えた生徒間のコミュニケーションもとれるのでよいのではないかと。 ・多様性について、単一的な人たちが集まる場所はいずれ衰退する。(同じような学力の生徒を集めるのではなく) いろいろな意見が出る、いろいろな議論ができるような多様性のある生徒が集まる高校ができれば、ウェルビーイングの推進にもつながるのではないかと。 ・社会が求めていることと、子どもが求めていることは乖離している。子どもが求めている学校が必要なのだろう。